

陽気だより

養徳社 検索

ホームページからご覧いただけます

No.30 2009.9.15

第4号(24年8月号)から

『陽気』は、昭和24年4月の創刊、今年は60年の年です。過去の記事から、その歩みの一端を振り返っていきます。

年齢の数へ方

中山正善

「数へ年」を廃めて、満で数へる。

「来年は逆に年が若くなる」と云う問題が、最近話題を賑はしてゐる。

「数へ年」とは従来一月一日を期して、年を一つづつ加へて数へる事であり、つまり、十二月生れの子供も、翌月は二つと数へられるわけである。

その事の不自然さ、不確実さは、誰しも、よく知つてゐる事であり、されば、満で数へる方が、正しいと云ふ考え方になるのも当然の事で

あり、あなたがち、外国に倣つてと云はなくとも、意義ある事と思はれる。

しかし私は最近に至つて、急に此の問題が取上げられ、いかにも従前は、旧慣になじんでゐたと云はぬばかりの改制論者に対して、一寸従来の慣習側に代つて、弁じてみたい気がしてゐる。無駄な様でも、お聞き頂きたい。

その一つは、今日迄、不自然、と云ひ乍ら、此方法になじんで来たについて、何等か便宜があつたのではないかと云ふ点である。慣習となつて用ひられてゐる以上、そ

第四号巻頭を飾つた入江泰吉の口絵写真と北原白秋の詩



水 上

水上は思ふべきかな。
苔清水湧きしたり、
日の光透きしたり、
櫃(かし)、馬酔木(あしび)、枝さし蔽(おおい、鏡葉の湯津真(ゆづま) 椿の真洞(まほら) かな。 水上は思ふべきかな。 北原白秋

の背後に、何等かの理念があつたのではないかと云ふ点である。(中略)

年齢とは人間の生命の長さを数へるものと解釈するならば、一人人間の生命は、何時から始まるかと云ふ点である。

誕生と云ふ言葉は、何を意味してゐるかを、詳しくしらべた事はない。しかも、満で数へる論者の様に、母体と分離されて生存する様になつたその契機を誕生と称し、誕生日から、年齢を計ると云ふならば、満年は、人間の生命は、誕生からであり、母体内生活は数へないと云ふ結果となる。

私は此人間の生命の始まりと云ふ実質的な考方と、誕生と云ふ具体的な考方と、此二つを考へてみるときに、所謂「数へ年」方式にも、實質に近い一理があると云ひたくなる。

云ふまでもなく、人間は、約十ヶ月の胎内生活を経て來てゐる。正確な事は、親神様以外に、父母といへども知り得ないかもしれないが、大略十ヶ月と云ふ時間を、胎内に新生命は生活してゐるのである。故に、その生命の長さを

年齢として数へるならば、母体との分離生活の始まる誕生の日より遡り、約十ヶ月の生命を、誕生前に、数へられるわけであり、その点を考へてみると、所謂「数へ年」式の計算法も実質的な生命の長さを現すに近いと云へるのではなからうか。

此あつた時に、くだらぬ話をしましたが、何れにせよ、此年齢の数へ方には、便宜といふ事が考へられてよい。客観的には、母体より分離される誕生の日を以つて、年齢の数へ始めとするのが、便宜である。

しかしその場合でも、それ以前、仮令母体内の生活期間ですら、此新生命は、既に此世に現れた一存在として、明かに個性を主張し得るものであり、母人といへども勝手に処断出来ない所である。と云つて数へ年の方が、生命の實際的長さに近いと云ふても、事実その創始を意味するものではなく、漠然と生命の時間的計算をするにすぎない。これ亦便宜的な意義を持つにすぎないと云ひ得やう。

(後略)

天地東西南北

「天高く馬肥ゆる秋」

秋の澄み切った青の空には、すーっと胸が開かれ吸い込まれるような力がある。確かに高い、と思う。両手を広げて深く息を吸い込むと、心も晴れ晴れとする。

『正文遺韻抄』（諸井政一・道友社刊）の「天地東西南北の事に就て」には、天然自然の様と人間の心もちの関わりが、含蓄もって語られている。

以下、転載する。（適宜ルビ入れ、括弧内は補足の加筆）

——在時、高井様など、（教祖の）御前にありて、『この地と天とは、どの位へだ、りがあるものならん』と、語り合ひしかば、教祖様仰せには、『ぢはぢいとしてゐるから、ぢいといふ。てんはてんじかはる（転じ変わる）もの故てんといふで。又人間の心のくを以てくもと云ふで。くもが



いくへも出た時は、ひくうみえるやろ、一點の雲もなく、につ本（日本）晴れといふ日には、なんぼう高いとも、わからんやうに見えるやろ。これが天やで。人間の心も、その通りやで」と。

天は水、地は火と、聞かせらる。されば、ひくき白雲も、高き青みきりたる空も、皆水なれば、天といふべきならんか、と悟りて、又『東西南北、どの位へだ、るものに有之や』

と御伺ひ申上げしに、『人間が両手をひろげてねたごとくや』と、聞かせられたり。人間、両手ひろげてね（寝）れば、東西南北、同じ程なり。是れ丸き理を、聞かせられにしや。又『地球は、人間の體の如くや。金類の出るは、人間の身にすれば、爪や。温泉といふは、キウシヨ（急所）のやうなもの、草木は毛の如く、水道（水の通る道）は血のすぢやで。おなじ理やで』と、御聞かせ被下たる事ありげに、おやさまのからだ

（躰）なりかし。——忙しさに心失いそうになつたとき、何かに行き詰つたとき、束の間、空を見上げてふところ住居に思いを巡らせては、いかがでしょう。肩の力も抜けて、不思議と力が湧いてくるのではないでしょうか。「黒雲の上なる空に出でぬれば 雨の降る夜も月をこそ見れ」（道歌）

「陽気」創刊60年記念出版
秋季大祭発刊

人生終なし

じんせいにおわりなし

父 柏木庫治を語る

3人の兄妹によるてい談
「陽気」掲載記事
柏木庫治小伝

「陽気」編集部編
四六判並製・280頁
定価=1,260円（税込）

図書出版 養徳社
天理市川原城町388
☎(0743)62-4503
http://yotokusha.com/

月刊雑誌 お道の人 創刊60年

陽気

『創刊60年定期購読特別割引』
通常 1年分 2,840円 → **2,400円**
(税込・送料込)
※特別割引は平成21年12月末日お申込分までとなります

お申込は 今すぐ!
〒632-0016 天理市川原城町388
TEL0743-62-4503 FAX0743-63-8077
養徳社 陽気定期購読係まで

「陽気」創刊60年記念出版

道の八十年

—松村吉太郎自伝—
天理教の歴史とともに
生き抜いた信仰軌跡

松村吉太郎 著 定価=1,680円（税込）
送料200円
(高安大教会初代会長)

「陽気」創刊60年記念出版

お道の人のおとておきの話

お道の人のお美しい心象風景 52話
朝席・夕席に最適です
定価=1,260円（税込） 送料200円

広告を載せませんか

ようぼくの企業や会社の広告を『陽気』誌へ載せてみませんか？ 料金は、記事中で一回二万円から。

詳しくは養徳社広告係まで
☎0743・62・4503

この「陽気だより」を各支部例会などの折、広く養徳社からのお知らせとしてご利用ください。ますよう、お願い申し上げます。

養徳社

養徳社 よもやま話

〇……息子たちのリクエストで、昔の結婚披露宴のビデオを家族そろって見た。出席者の顔は皆若々しい。BGMがエレクターの生演奏だったのが、時代を物語っていた。

さて、映像は二次会へ。その出席者の中に、いま社内で机を並べる人の姿が。翌朝、「あの日、来てくださったってたんですね。ありがとうございます」覚えてへんわ。たまたま、呑みに行っていただけや」とは、いかに？

〇……今、秋季大祭に発刊する『人生三終なし』の最終校正段階に入っています。校正刷りは何度読んでも面白く、また感動をもって読むことができます。即効性と実利を狙ったハウツー本が流行る昨今、対極にある信仰の世界のロマンを感じる本書は、自信をもってお勧めできます。